

修 士 論 文

卒業論文，修士論文の概要および表紙のスタイルファイル
－ その構成と利用方法 －

指導教員： 工大 知能 教授

九州工業大学大学院情報工学府
先端情報工学専攻

2019 年度

九工大 太郎

論文概要

九州工業大学大学院情報工学府 先端情報工学専攻 知能情報工学専門分野

学 生 番 号	12345678	氏 名	九工大 太郎
論 文 題 目	卒業論文，修士論文の概要および表紙のスタイルファイル － その構成と利用方法 －		

1 はじめに

このファイルでは，知能情報工学科（先端情報工学専攻 知能情報工学分野）の卒業論文及び修士論文概要スタイルファイルの使い方について説明する．

2 必要なファイル

概要作成に必要なファイルは，

```
personal.tex  個人データファイル
abst.tex      概要
AIabst.cls    概要クラスファイル
```

である．概要作成時には `abst.tex` をコンパイルすればよい．

論文本体作成に必要なファイルは，

```
personal.tex  個人データファイル
main.tex      本体
AIcover.sty   表紙類スタイルファイル
AIthesis.sty  論文本体スタイルファイル
```

である．論文本体作成時には `main.tex` をコンパイルすればよい．

またバインダ用の表紙作成に必要なファイルは，

```
cover1.tex    論文表紙
spine.tex     論文背表紙
AIcover.cls   表紙類クラスファイル
```

である．表紙作成時には，`cover.tex` および `spine.tex` をコンパイルすればよい．

基本的には以下の 3 つのファイル

```
personal.tex
abst.tex
main.tex
```

を加筆・修正することで，概要と表紙を含む論文本体¹が作成できるようになっている．なお，表題を 2 行に分けたいときには，`personal.tex` の題目の改行位置に `\\` を挿入すること．

修論の場合はクラスファイルオプション `master` を指定し，

¹ 論文本体をコンパイルするときに概要の PDF を読み込んでい
る．もし，`main.tex` をコンパイルして概要（`abst.pdf`）が正しく出力
されない場合は，PDF を編集可能なソフトウェアを利用し，中
表紙と論文本体の間に概要を挿入すること．

```
\documentclass[master]{AIabst}
```

あるいは

```
\documentclass[master]{AIcover}
```

などと修正したのち，コンパイルすること．

3 注意する点

本スタイルファイルで注意する点は以下の通りである．

1. 卒業論文における所属部門名は以下の通りである．なお，「 部門」の「部門」は不要である．

- 知能数理学部門
坂本，瀬部，平田，井，石坂，下園，乃美の各研究室．
- 知能情報アーキテクチャ部門
久代，八杉，吉田，江本，片峯の各研究室．
- 知能情報メディア部門
榎田，岡部，嶋田，乃万，國近，中村の各研究室．

2. 基本的に通常の `LaTeX` と同じように利用できる．ただし，パッケージは最低限のものしか入っていないので，必要に応じて `abst.tex` へ追加すること．

3. 見出しは `section` と `subsection` しか使えない．

4. `baselineskip` は変更しないこと．

5. 参考文献を加えてもよい．使い方は通常通りである．例えば，“`LaTeX` の参考書には [1, 2] がある．”

参考文献

- [1] 野寺隆志，楽々`LATEX`（第 2 版），共立出版，1994．
- [2] 奥村晴彦，`LATEX2ε` 美文書作成入門－論文作成から DTP まで自由自在－，技術評論社，1997．

目 次

第 1 章	はじめに	1
1.1	論文の書式	1
1.1.1	使用言語	1
1.1.2	ページのレイアウト	1
1.1.3	文字の大きさ	1
1.1.4	製本方法	2
1.1.5	提出について	2

第1章 はじめに

ここに「はじめに」を書く．

1.1 論文の書式

論文は，A4 版で，コピー用紙程度の上質紙に印字すること．書式は，過去の修士論文，卒業論文等を参考にし，指導教員の指示を仰ぐこと．

1.1.1 使用言語

論文を記述するのに使用する言語は，日本語または英語とする．

1.1.2 ページのレイアウト

製本その他読みやすさ等を考慮して，マージンは大きめにとること．

上マージン 25mm 程度
下マージン 30mm 程度（ページ番号もマージン内に含む）
左マージン 35mm 程度（製本の都合上 30mm 以上は必要）
右マージン 25mm 程度

1.1.3 文字の大きさ

読みやすさ等を考慮して，極端に小さい文字や大きな文字はさけ，行間は十分にあけること．文字サイズ 11-12pt, 1 ページ 30 行で日本語の場合は 1 行あたり 40 文字程度が目安となる．

1.1.4 製本方法

提出する論文は学科事務室で配布するバインダを用いて製本する。(バインダは、修士論文の場合は提出前に事前に、卒業論文の場合は卒業論文概要提出の際に受け取ること。) 綴じ穴は製本の都合上 2 穴、穴の位置は紙の端から 12mm とする。

バインダーの表紙および背に、cover.tex および spine.tex を用いて作成した表紙、背表紙を貼り付けること。

1.1.5 提出について

提出についての詳細は修士論文は Mschedule.pdf、卒業論文は Bschedule.pdf を参照のこと。